

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第4区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-509751(P2005-509751A)

【公表日】平成17年4月14日(2005.4.14)

【年通号数】公開・登録公報2005-015

【出願番号】特願2003-545855(P2003-545855)

【国際特許分類】

C 22 C 38/00 (2006.01)

C 22 C 38/58 (2006.01)

【F I】

C 22 C 38/00 302Z

C 22 C 38/58

【手続補正書】

【提出日】平成17年9月27日(2005.9.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項6】

U字状の曲がりに冷間曲げされ、海水のような塩基性環境に対する耐性に高い要求を満足する必要がある用途における熱交換器の管として使用される請求項1～5のいずれか1項に記載の鋼。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

実施例5

標準ASTMのG48Aにしたがう試験は、ヒート8を除く全ての変種材の材料について実行した。開始温度は、50の開始温度で試験をしたヒート11と12を除き、全ての変種材で25であった。2回の試験が行われた。温度上昇は、全ての試料で5であった。使用された試験溶液は、HClを添加していない通常の6%FeCl₃であった。結果は、二つの試験片についての平均臨界孔食温度(CPT)として扱った。最も良好な変種材の結果としては、孔食が100の最高試験温度で出現しないと考察する。電気化学試験は、ヒート8を除く全てのヒートで実施された。この場合に、環境は3%NaCl溶液で負荷電位600mVの飽和塩化第1水銀電極(SCE)であった。開始温度は20であり、5度ごとに上昇させた。各材料のヒートから6本の試料を試験した。電気化学試験からの結果は、85～95の間のCPT値になると考えられる。